

ROSとは何か？

「便利さや快適さも必要だが、ときには静けさや自然との一体感も大切にしたい」。
ROSは、人々が求める様々な質のレクリエーション体験を提供するためのソーニング手法です。
ROSとはRecreation Opportunity Spectrum の略で、1970年代に米国の森林局によって開発された考え方です。ROSでは様々な利用者が様々なレクリエーション体験を求めていることを前提に、レクリエーション地域をいくつかのゾーンに区分します。便利さや快適さのために人間の手が増えるゾーンがある一方で、原生的な自然環境やそこでの体験を保全することが優先されるゾーンも存在します。

はじめに / PREFACE

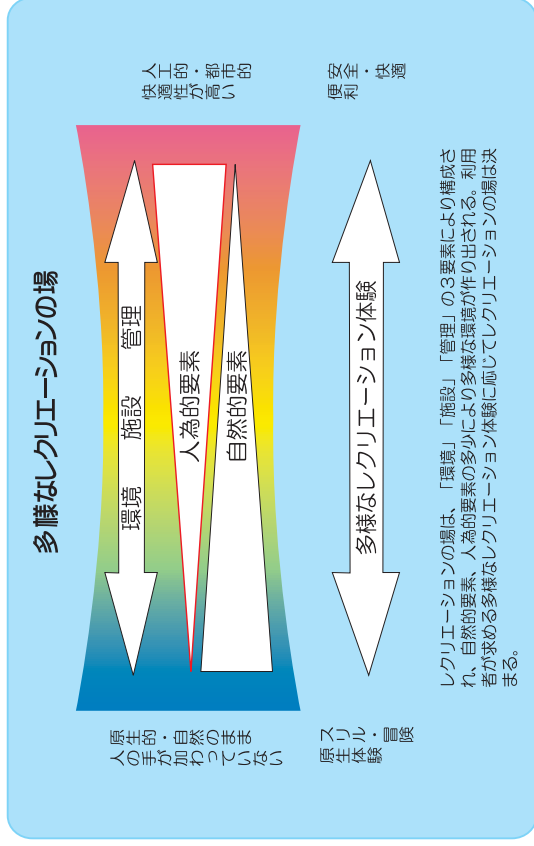
もしあなたが山のトイレ問題に頭を悩め、早急にトイレを設置すべきだと考えているでしょう。あなたはすでに、どんな形式のトイレにしたらいいかということに関心が行っているかもしれない。しかし、結論を急ぐ前に、そもそもその場所にトイレを作っているものか？という点にも考えを巡らせるべきではないだろうか？山のトイレはその地域の景観や雰囲気になき影響を及ぼすし、またトイレの設置によって一層の登山者の増加を招くかもしれない。それによって、あなたの大好きな登山者の良いキャンピング地が俗化してしまう恐れもある。むろんだからといって、このまま尿を垂れ流していいわけでもない。このような問題をどう考えたらいいだろうか？

あるいは、あなたは最近増えている高山帯の木道について違和感を持っていて、少し作りすぎではないかと感じているかもしれない。確かに登山靴が泥で汚れるのはいやだし、汚れを避けて高山植物の植生を踏み荒らすのは避けたい。もちろん、少しの雨でもスプスプになっってしまうような温床では、しっかりした木道が必要かもしれない。けれども、最近の木道は、普通に歩けば靴も汚れず植生も荒れない場所にもまで敷かれ、まるで都市公園を歩いているような気分にはさせられることがある。あなたの違和感、そういうところにあるのではないだろうか？では、どういうところに木道を設置し、どういうところには設置すべきでないのだろうか？

これらの問いへの答えが欲しい方は、ぜひこの小冊子を読んでいただきたい。何かヒントが見つかるのではないかと思う。

目次 / CONTENTS

- 第1章 ROSとは何か？.....2
- 第2章 自然公園の諸問題にROSはこう答える.....7
- 第3章 自然公園計画にどのようROSを活用できるか？.....12



－ROSの概念図－

■ROSの考え方

ROSでは、これらのゾーンで得られる体験の質が「環境」「施設」「管理」という3つの要素によって成り立っていると考えます。「環境」とは自然らしさや人との出会いなどレクリエーション体験の舞台となる環境を指し、「施設」とは登山道、山小屋・キャンプ地、トイレなどレクリエーション体験に必要な施設を指します。そして「管理」とは、標識や規制などレクリエーション行動をコントロールする行為を指します。

たとえば、便利さや快適さを優先するゾーンでは、もともとの自然が改変され、人との出会いも多い「環境」となります。ここでは、「施設」は歩きやすく整備された登山道など快適で便利なのが期待され、「管理」も安全を最優先にした誘導や規制が行われます。一方、原生的な自然環境やこれまでの体験を優先するゾーンでは、手つかずの自然が残り、人との出会いがほとんどない静かな「環境」があり、逆に便利・快適・安全のための「施設」や「管理」はあまりありません。

ROSの考え方に基づいたソーニングによって、管理者にとっては場所ごとの施設整備・管理目標が明確になり、利用者にとっては期待する体験が得られる場所が明確になります。では、大雪山国立公園を例に考えてみましょう。